

図3 調査地点位置図 (地点No.32・33は範囲外)

特別史跡 加曾利貝塚

特別史跡 加曾利貝塚  
令和6年度 発掘調査現地説明会



図1 加曾利貝塚位置図 (国土地理院 基盤地図情報より作成)

今年度の調査の目的

- ・小竪穴、竪穴住居跡群（中期）の確認
- ・柱穴群（後期）の分布と時期の確認
- ・貝層の堆積状況と時期の確認

※上記により、今後の調査や史跡整備のための情報を得る。

所在地：千葉市若葉区桜木2丁目154番1他  
調査期間：令和6年9月10日～12月14日  
調査機関：千葉市教育委員会生涯学習部文化財課  
調査面積：約500㎡



写真1 発掘調査の様子

発見された遺構と遺物

遺構：竪穴住居跡・小竪穴・土坑・柱穴・貝層・遺物集中地点〔縄文時代中期・後期〕

遺物：縄文土器〔中期・後期〕  
土製品（土製垂飾・耳栓）  
石器（石鏃・磨製石斧・敲石・磨石・石棒）  
動物遺体（魚骨・獣骨）

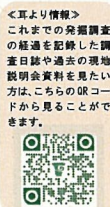


写真2 遺物出土状況（遺物集中地点）

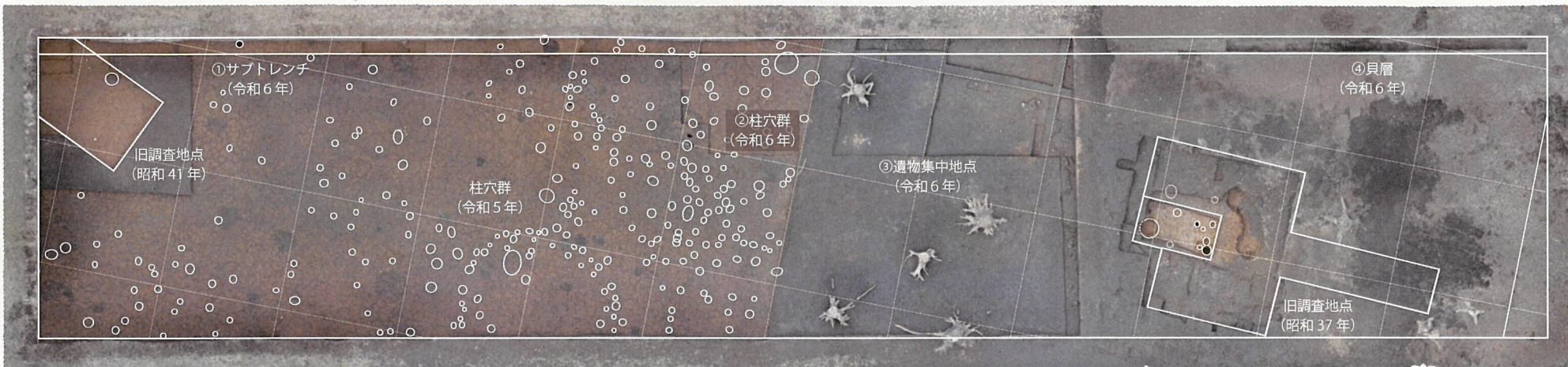
表1 加曾利貝塚調査一覧

地点No.	調査次	区分	調査年
1-2	第1次	北貝塚	1962(昭和37)年
3-9	第2次	南貝塚	1964・1965(昭和39・40)年
10-12	第3次	北貝塚	1965・1967(昭和40・42)年
13-15	第4次	北貝塚	1966・1967(昭和41・42)年
16-18	第5次	北貝塚	1968(昭和43)年
19	第6次	東傾斜面	1968(昭和43)年
20-23	第7次	東傾斜面	1970～1973(昭和45～48)年
24	第8次	東傾斜面	1973・1974(昭和48・49)年
25	第9次	南貝塚 東傾斜面	1986～1988(昭和61～63)年
26-28	第10次	南外縁部 南貝塚 東傾斜面	1989・1990(平成元・2)年
29	第11次	南外縁部	1984(昭和59)年
30-33	第12次	西外縁部	1977・1978・1980・1989 (昭和52・53・55・平成元)年
34-36	第13次	北外縁部	1983・2013・2014 (昭和58・平成25・26)年
37	第14次	南貝塚	2017～2019(平成29～令和元)年
38	第15次	南外縁部ほか	2019・2020(令和元・2)年
39	第16次	南貝塚	2020～2022(令和2～4)年
40	第17次	西外縁部	2022(令和4)年
41	第18次	北貝塚	2023・2024(令和5・6)年

発行者 千葉市教育委員会  
生涯学習部 文化財課  
発行日 令和6年11月30日



令和6年度発掘調査の概要



4m  
図2 調査区全体図



写真3：小竪穴出土の土器（中期）（図2①）

調査区北壁に沿って掘削したサブトレンチ（試掘溝）から加曾利EⅡ式土器がまとめて出土しました。土層断面の堆積状況と出土土器から、縄文時代中期の小竪穴（貯蔵穴）と考えられます。



写真4：遺構確認面出土の土器（中期・後期）（図2②）

令和5年度調査で確認した、柱穴群（後期）の分布と時期を正確に捉えるために、継続して調査を行っています。不明瞭であった確認面をさらに一段掘り下げたところ、遺物を伴う柱穴や土坑を確認しました。



写真5：遺物集中地点の出土状況（図2③）

今年度から掘削を開始した範囲で、堀之内式土器を主体とする後期の土器片が集中して出土しました。竪穴住居跡の可能性や旧調査地点（昭和37年）で確認した遺物包含層との関連も視野に入れて調査を進めています。

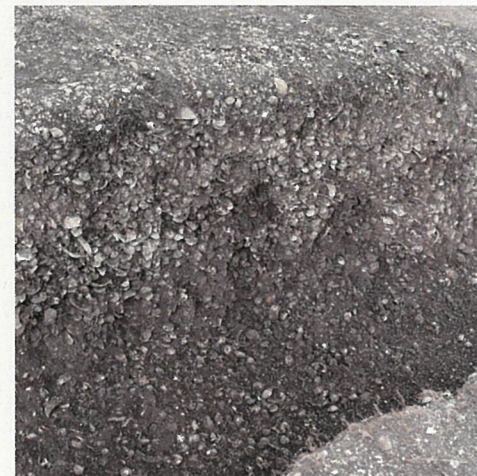


写真6：堤状貝層の堆積状況（図2④）

貝層の堆積状況と時期を確認するため、堤状貝層の分布範囲にまで、調査区北壁のサブトレンチ（試掘溝）を拡張しました。イボキサゴを主体とする貝層は、小さなハマグリを多く含むことから縄文時代中期の所産と推定されます。